

英語コミュニケーションⅠ 授業指導計画

授業者

- 1 日 時 令和6年2月16日（金）5限
- 2 実施場所 15HR教室（南館2階）
- 3 H R 15HR
- 4 生徒観 本学級の生徒は全体的に前向きで、読解や英語を使っての表現活動にも積極的に取り組める生徒が多い。まとめて話された英語や難しめの語句は理解できていないこともあるが、理解度の高い生徒が発言し周りを助けることもできる。本時の学習は、既習の facility dogs の役割を理解した上で、それによってもたらされる効果のひとつの「オキシトシンの生成と分泌」がテーマになっている。このホルモンが良い影響を与える場面を設定し、それについて英語で表現できるようになることが、本時のねらいである。
- 5 単 元 More Information “Oxytocin, the Happiness Hormone”
- 6 本時の目標 「グローバルな視点に立ち、科学的思考によって課題を発見する能力の育成」をはかるため、内容に関する英語を聞いて話したり書いたりすることで、自分の意見を英語で表現できるようになる。
- 7 本時の展開

	指 導 事 項	留 意 点
導 入 (3分)	「どんなときにリラックスするか、例を3つ挙げよ。」という質問をペアで互いに行う。	発話しやすい雰囲気をはかり、幸せホルモンを学ぶ動機付けとする。
展開1 (25分)	「オキシトシン」の分泌について、ALTがプレゼンテーションした後、ホルモンの分泌を促すためにどんな活動がおすすめなのかを、ワークシートに記入させ発表させる。	電子黒板・Powerpointを使用。 活動例は選択肢を準備。
展開2 (17分)	ALTがプレゼンテーションで扱った学習内容の理解度を確認する。	電子黒板・“Kahoot!”を使用。  グループ活動とし、理解度の違いをカバーできるように配慮する。
まとめ (5分)	本時で学んだ内容を英語でワークシートにまとめさせる。	既習の語句を使用するよう、ヒントを与える。